

CMA新春セミナー・新春ことぶき市

CMA Newsで何度かお伝えしてきました「寿一105」の完成を記念して「CMA新春セミナー」が1月15日に開催されました。CMA新拠点が確保されたことを契機に、会員全体の集える場の充実を意図して実施された企画で、新春早々にもかかわらず、会員だけでなく、加治木さん・塚本さん・CASEメンバー他多数のゲスト参加もありました。

●キューバ視察報告

新春セミナーのメイン企画で、初めて見るキューバの都市状況の報告とたくさんさんのスライドが好評でした。社会主義革命を経た都市にもかかわらず、革命前のいろんな時代様式をまとった建築群、クラシック・カーマニアなら垂涎の古



い自動車が現役で走っている状況、町に集う人々の明るい表情等々、東欧諸国の社会主義色とはまったく異なる光景を目の当たりにしました。「政治的な主義・主張も環境が違えばこんなにも変わるものか」というのが、参加された方々の素朴な感想であったように思います。BGMとして流されたヴィエナ・ヴィスタ・ソーシャルクラブのキューバ音楽がライクダーにより着目されたように、現代におけるキューバの姿がクローズアップされ、何かを訴えかけてくるように感じられたセミナーでした。

●CMAバス輪行ツーリズム報告

「キューバ視察報告」に引き続き「バス輪行ツーリズム」の映像がスライドショーされ、ツアーに参加された方にとっては思い出のひと時、参加されなかった方にとっては「自転車ってすごい」の感想が聞かれました。昨年2回実施されたバス輪行ツーリズムは今年7月・海の日開催予定の「つるむde尾道」につ



ながり、CMAにとって自転車関連活動は一定の実績を構成してきており、今後の更なる発展が期待されます。

●新春ことぶき市

会場の一角では、「バス輪行ツーリズム」他に関連して培われてきた産地直送の新鮮野菜他のテスト販売が「新春ことぶき市」として併設され、好評を得ま



した。「むら・まち協働研究部会」の西村部会長には何度もリュックで商品を持ち込んでもらい、有難うございました。また、能勢の古嶋商店の仕入れには早朝から寺川副会長に、販売・広報には竹本さん・石倉さんに活躍いただきました。寿住宅の皆様からも「産直販売会」「地域の惣菜販売」他の期待も厚く、今後のCMA活動の一つにつながるテスト販売でした。

●さいごに

会場となった寿住宅・集会所は団地内でもあまり活用されていないのですが、CMAの参画により新しい活用の機会を得たように思います。CMAにとっても初めて「根付いた活動拠点」を得たことに



なり、寿一105とともに活用して行きたいところでは。セミナーの後の懇親会にも出席者のほとんどが参加され、キューバみやげのトウモロコシ酒、産直野菜・味噌の試食他充実した時間を過ごすことができました。「このような場を定期的で開催したらどうか」という意見が出され、2ヶ月に1回程度気軽に参加できるCMAサロンとして定着させて行くことが決定されました。3月初旬開催に向けて調整していますので、皆様のご参加を期待しております。

■鳥は鳴いても夜は明けぬ

この言葉は、ムラのおばちゃんたちが昔から使う諺で、「言うだけでは結局何も起こらない」ことを示したもので、地域リーダーに対するカラカイと期待を表現しています。この地域の本格的なまちづくりの夜明けは、2001年のまちづくり協議会「お宝発掘隊」とNPO法人「暮らしづくりネットワーク北芝」の設立から始まります。振り返ると、この2つのエンジンがあることでまちづくりにリアリティと広がりをもたらしたように思います。

当時、私は地域集会所に拠点を設置し、人々の「つぶやきひろい」を進めていたが、このつぶやきから始まった「お宝発掘隊」の活動は、人々のつぶやきが意外に共有されていないという気づきにつながりました。そして、この気づきはすぐに行動に現れま

した。地域の大工さんによる団地の住みくさを改善する「ちょっと住み良く・もっと住み良くプロジェクト」や管理されていない団地前庭への「花いっぱい」プロジェクトも始まるなど、ムラの人々が主体になって目に見える試行活動へと展開していきました。

その後「つぶやきひろい」の活動は、NPO法人によって「達人発掘ワークショップ」とい

う形で広がりを持った活動へと転換し、期間限定型まちづくりである「ゆめ工房」プロジェクト(次回報告予定)へと発展していきます。

「コレクティブタウン北芝」のまちづくりの特徴ともいえる「つぶやきつなぎ」と「チャレンジ」の文化は、実は昔からおばちゃんたちのメッセージに込められていたのかもしれない。

CMA副会長 寺川 政司



自転車と共に楽しむ市民の会—CMA「自転車市民倶楽部」設立に向けて

従来のCMA「自転車市民ステーション」部会の推進力を高め、活動の裾野を広げるため、名称も新たに「自転車市民倶楽部」を立ち上げ、幅広く会員を募集することになりました。

① スローガン「自転車と共に楽しむ市民の会」

「倶楽部」とは「俱(とも)に楽しむ」という意味で、ツーリズムにウェイトが置かれますが、普段の自転車生活全般に関わる、行政改革等の活動にも積極的に参画します。

また、「まちづくり」に視点を置く会員で、倶楽部会員からの希望者はCMA入会への間口を広げて行きます。

② 参加資格は「自転車を愛用するすべての市民」が対象。入会者拡大と活動に弾みをつけます。

③年会費は「自転車総合保険込み」で¥5,000(4月1日~3月31日) OCA大阪サイクリング協会(年会費¥4,000)に団体加入しますので、自動的にJCA日本サイクリング協会会員にもなります。¥1,000は倶楽部の広報通信/事務諸費に充当します。

④ 自転車総合保険は本人の死亡・後遺障害時213万円、相手に怪我などをさせた場合の賠償補償5000万円、その他オプション(追加保険料要)で自分の怪我の補償も可能です。

⑤ 倶楽部会員特典

- CMA企画の自転車ツーリズムには会員費(¥3,000引)で参加できます。
- CMA主催の各種イベント、セミナー等にも会員価格で参加・利用できます。

●CMAニュースに「倶楽部NEWS」を付録し、ゆくゆくは単独での発行をめざします。

●JCAのニュース(年4回)とOCAのニュース(年4回)が届きます。

●OCA, JCAの協会行事に会員優待価格で参加できます。

●休暇村1泊2食申し込み時の室料割引があります。

●その他関西サイクルスポーツセンターの入場無料、堺自転車博物館の入場割引など。

⑥ 倶楽部会則

—自転車市民6K宣言—

- ①自転車市民は「健康」のよろこびを共有します
- ②自転車市民は「環境」との共生を追求します
- ③自転車市民は「観光」の共感を高めます
- ④自転車市民は「教育」を共育として実践します
- ⑤自転車市民は「交通」を共同空間として考えます
- ⑥自転車市民は「経済」を協働で持続させます

⑦ 倶楽部役員体制

CMA役員会と「自転車市民倶楽部」部会にて合議制で決定します。

「自転車市民倶楽部」第1回募集締切は、OCA団体加入の必要上3月20日とさせていただきます。

まずはCMA会員ならびに、お知り合いへの方々への倶楽部加入をおすすめください。

自転車市民倶楽部 小山 勝己

西 淡 路 2 丁 目

去る2月11、12日に「サイクルトレインで、早春の伊勢志摩へ」の自転車ツアーに参加しました。(CMA関係者総勢8名)自転車を輪行分解せず、そのまま貸切電車で積み込んで賢島まで。その模様を紹介します。(デビ)



発行 一般社団法人 コミュニティマネジメント協会
〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路2丁目1-14
日之出第三住宅(ことぶき住宅)105号室
電話:06-7860-4730 FAX:06-7860-4731
jimukyoku@cma-web.net http://www.cma-web.net